

令和4年度第1回敦賀市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和5年3月27日（月） 13時30分～14時30分

2. 場 所 市役所2階 庁議室

3. 出席者

	市 長	渕 上 隆 信		
	教 育 長	上 野 弘	教育長職務代理者	岸 本 松 則
	委 員	中 宮 智 子	委 員	堺 啓 輔
事 務 局	事 務 局 長	山 本 麻 喜		
	教育総務課長	多 賀 隆	学校教育課長	鈴 木 成 吉
	秘書広報課主幹	瀧 口 賢 了	教育総務課長補佐	小 保 麻 貴
	学校教育課指導係長	落 合 崇	教育総務課総務係長	杉 村 祐 介
	学校教育課指導主事	清 水 功 二	学校教育課指導主事	杉 本 佳 昭
	教育総務課職員	森 川 友		

4. 内 容

1 開会

2 市長あいさつ

本日は、お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

さて、早いもので、今年度もあと数日を残すところとなりました。

先週の22日に閉会しました3月の市議会定例会においては、来年度の当初予算案について審議がなされました。

教育委員会関係といたしましては、主な予算として、小中学校におけるデジタル教材等の利用環境に係る整備費用や、国指定史跡武田耕雲斎等墓のガイダンス施設整備費用等について計上し、それら全てをお認めいただいたところです。

また、国の地域部活動推進事業の研究指定を受けて、令和3年度から2年間、市内中学校の吹奏楽部の実践研究を進めているところですが、新年度からは吹奏楽部以外の部活動においても、国のガイドラインに基づき、休日の部活動の段階的な地域移行に取り組んでいく予定です。

このような中、本日は、「部活動の地域移行について」、2つ目には「ICTを活用した教育（GIGAスクール構想）の取組、進捗」について、ご協議をいただきます。

委員の皆様におかれましては、是非とも忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

3 協議事項

(1) 部活動の地域移行について

学校教育課長より説明

市長…ただ今の説明で、ご意見ご質問等ございましたらお願いします。

岸本委員…現状のままでの学校部活動となれば、この方やり方しか方法はないかと思います。

ただ、そもそも部活動とは何なのかというところから入ると、私たちの時は課外活動でした。部活動をしなければいけないという法的な義務は何もありません。おそらく放課後の子供たちの余暇をどのように有効に使うかということで始まったと思います。それが今は中体連等いろんな組織でがんじがらめになって各学校が外へ出るのもできない状況になってきているのですが、本来は教育課程外の活動ですね。やらなければいけないという法的な根拠はありません。二つ目は生徒の自主的、自発的な参加が原則となっているので、部活動に入りなさいという強制はできません。本人の自主的、自発的な活動なので参加してもしなくてもよいということ子どもたちにきちんと伝えてあるのか。三つ目は学校にかなりのしわ寄せがきているので、地域に移行していきましょうということです。現状のそれぞれ学校にある既成の部活動の概念のまま地域に移行していこうとすると、受け入れが難しい地域もあると思いますし、敦賀でそれだけの運動部が受け入れられる地域の体制があるかというのも難しいところです。そうすると、逆に地域が受け入れられる活動がないのかを考えてみるのもよいと思います。地域でこういう活動をしているのでそこに子供たちが参加すると、受け皿ができていますので話がしやすいと思います。例えばですが、山岳部だと登山活動を支援するグループがあるので、そこに参加する子供たちがいるかもしれません。あるいは個人で興味があるのでこういうことをしていきたいという子どもたちもいるかもしれません。地域でしている活動を学校の受け皿として受け入れる。それを学校の課外活動の一環として紹介してそこに参加するということを働きかけていくといいのではないのでしょうか。併せてふるさと教育も考えていけるとと思います。このように発展させていくということどこかの地域が口火を切っていかないと、非常に難しいのではないのでしょうか。敦賀で3、4年後に始められるといいですね。

市長…クラブ活動ではなく、課外活動と捉えてとのことです。そのように考えてみると、平日にしているクラブ活動と、土曜日にする活動が同じ競技でなくてもいいということですね。そのような考え方も一つですね。もしくは生徒が月曜日から金曜日までしか活動しないという生徒も出てくるかもしれませんね。

岸本委員…一つの部活に入ったらずっとそれに縛られるというのではなく、あくまでも教科外の活動なので、余暇の善用だと思います。それが今はいろんな組織ができて勝つため、優勝するためと頑張っていますが、本来は違うのではないかと思います。中学校の部活動の指導者は、素人の先生が顧問になって指導している先生もいるので、専門の方にさせていただいたほうが良いですし、時間的にもったいないと思います。

市長…一方でサッカーや野球のクラブチームもありますので、それを部活動ととらえる

のかどうか。そうなったときに謝礼はどうするのか等関係してくるので、そういったところも整理していかないといけないと思います。都会はクラブもバスや電車も充実しているので、都会と田舎では移行の仕方が変わってくると思います。

中宮委員…子どもたちや保護者にアンケートはとるのですか。令和8年度は週末を地域に任せるとなっていますね。移行期間は平日を学校で部活をして、週末はどこか地域で活動をするのですね。

学校教育課長…令和8年度を目指してしていきたいと思っています。

中宮委員…強制ではないのですね。クラブチームに入ると保護者の負担もかかりますのでそのあたり保護者に説明はするのですか。

学校教育課長…はい強制ではないです。実際吹奏楽は、令和3年度より、平日は学校で部活動をし、休日は月2回敦賀市民ジュニア吹奏楽団で活動しています。だいたい部員の半数ぐらいが団に所属していて、あとの半数は休日は他にやりたいことをするという子たちもいます。将来的にいろんな受け皿ができれば、平日は部活動をして休日も同じ活動をする子や、休日は違う活動をする子もでてくると思いますし、受け皿の体制ができていけば平日もどんどん移行していく形になっていくとは思っています。

中宮委員…子どもたちも選択肢が増えるのもメリットかと思います。

学校教育課長…そこまでたどり着くにはなかなかですが。

市長…子どもたちや保護者にもアンケートはとるのですかというご質問に対してはどうですか。

学校教育課長…改善していくために、より良い形にしていくためのアンケートは必要だと思っております。

堺委員…今後の、特に夏休みなどの移行のイメージはどのような感じですか。

学校教育課長…休日の活動に関わらないですむようにということですので、夏休みも平日については勤務時間内で指導することになりますので、これまで通りです。

岸本委員…教員の勤務の体制のことですね。

堺委員…中途半端な感じがしますね。完全に教員側の都合だけでやっていて、子どもの都合を考えていないような気がして、合理的な制度に思えないですね。子どもにとってそれはあまりにも意味のない区別だと思うので、それはやめた方がいいと思います。もう少しはっきり誰のためにやるのかというところから考えないといけないと思います。

市長…スタート地点がここにはないですね。先生が大変だからこうしようということなので、おっしゃる通りですね。今後保護者や子どもたちの移行を少し聞いていかないといけないですね。

学校教育課長…子どもたちの可能な活動場所という面もありつつ、教員の働き方改革という面もあるので、考えていかないとはいけません。

岸本委員…夏休みは体験をするとか自由研究等たくさんあるけれども、部活は普段の平日と同じように毎日学校に行って練習というのもおかしいような気がしますね。

市長…土日だけ他のチームに混ざるというのも、適応できる子とできない子というと思います。

中宮委員…教職員のアンケートで部活動において指導を希望しない割合が88%もいるのですね。

岸本委員…そうですね。他にもたくさん仕事がある中でそれを置いて子どもたちの指導にあたって、帰ってから仕事をしているので、本来なら時間をかけて指導の研究をしたりする時間なので希望する職員は少ないと思います。

市長…土曜日に学校を使用したときに、施設の開閉を誰がするのかという問題も出てくるとと思います。

(2) ICTを活用した教育（GIGAスクール構想）の取組、進捗

学校教育課長より説明

市長…ただ今の説明で、ご意見ご質問等ございましたらお願いします。

中宮委員…すべての子供たちの学びを高めるとありますが、遅れていく子や取り残されている子もいますし、苦手な子も出てくるとと思いますが、その子たちに対しては別でサポートしていくのですか。

学校教育課長…そのあたりのサポートに学習支援アプリがあります。

中宮委員…家庭には持ち帰っているのですか。

学校教育課長…持ち帰りは進めています。

中宮委員…その中でもきちんとする子としない子と出てきますね。課題など出すと、教員の負担はないと思うのですが、取り残された子の負担も出てきたりすると思います。教員でもITの苦手な先生もいると思いますがそういった指導などもされるのですか。

学校教育課長…校内でいろいろ研修をしながらですね。

中宮委員…いいと思うのですが、私たちはアナログなので、心の通った教育はできるのかなと思います。

学校教育課長…データ管理をしていくので、それぞれの苦手なところの結果もすぐわかります。ただそれだけでは対応できないことはこれまで通りの個別の対応も大事になってくると思います。これまで見落としていたことが使うことによって苦手なところや必要なことが把握できます。

市長…中宮委員がおっしゃっていたことが、1ページと21ページにも書いてありますが、学校間、教員間で利用率に格差が出ないようにとありますが、授業ですと格差はないけれども、人間なので理解力が全く違うので子どもたちの方で理解できるようにしてほしいということですので、よろしくをお願いします。

岸本委員…9ページにタブレット端末の利活用状況がありますが、敦賀市の場合は、県と比

べて拡張の状況がすごく良いという数値が出ているのですが、GIGAスクール構想やICTが入ってきて1人1台端末を配って、活用してくださいとしても、使うことが目的になってしまうと活用はたくさんしているけれども、機能を理解して有効に活用できているかといわれると、別問題になってきます。有効な活用をしたうえで数値が伸びているのなら良いのですが、使っているだけでは意味がないと思います。今はとにかく慣れるということで活用時間が多いのはいいと思います。今後有効な活用をしていくにはどうしたらよいか。多様な子どもたち一人一人に差がなく公平な教育を提供するものだと思います。個別指導がきちんとされているかという、先日授業を見たのですが、個別の意見は出すのですが、全体で集約されて一斉指導に入っていました。個にかえるという場面は少ないですね。個に対応するという個の本質からみたら、かけ離れた一斉指導に近いICTの使い方です。本来はそうではないですね。先生方も理解して有効活用をしてほしいです。日本は欧米から遅れているので、焦って導入して今の子どもたちは自由に使えないといけないということもあり、GIGAスクール構想がはいってきたのですが、まず使って慣れることは大事なのですが、学校の授業で有効活用するようになってくるとまた違うと思います。日本の学級の人数で先進国並みにするのは難しいと思います。20人前後の数でないとい々に対応することは難しいと思いますので、日本版のICT教育を考えていかなければいけないと思います。先生方も、どこまで使えて、これは無理だというところをわきまえてしていかないと負担が増えていくと思います。

堺 委員…利用状況を見てみると、小学校よりも中学校の方が利用率が低いのですが、何か原因があるのですか。

清水指導主事…中学校の先生方からお聞きするのは、一時間で取り扱う授業内容について、小学校よりもはるかに多いので、本来ならば考えて議論させるためにタブレットを使っていくところもありますが、受験等もあるので知識などを定着させるために、なかなかそういう時間が取れないと聞いております。

堺 委員…現状ではしっかりした理解をしてもらおうと思ったら、使えないということですよ。イメージとして小学校の方が多なのは、算数セットのようなツールでしかないのかと思います。本当に教育のツールとして有効に使っていくのなら、本来なら高学年、中学校になるほどより使わなければいけないはずなので、位置づけがまだ不十分なのではないかと思います。

市 長…私も話をお聞きしていて感じたのは、誰のためにしているのかというところが見えてないのかと思います。ICT化することで先生方の負担を減らそうという方向に動いて行ってしまうとまずいと思います。10ページの自分の考えをまとめ、発表する場面で活用するとありますが、ICTを導入することで小学校中学校を学んだあとにどういう人になってほしいのかというイメージ像を作ってそこに向かっていろんなことを教えていくということが大事だと思います。自分の考えを

まとめて発表するようにみんながなりましょうということであれば、そこに向けて高度なことをしていかなければいけないと思いますし、それに対して時間が無いのかもしれませんが目指すところを持たないと、方向性がなくお手軽簡単な中でしましようとなると思います。

堺 委員…タブレットの利用状況で9ページに授業中に自分で調べる場面で活用とありますが、見ているとほとんどG o o g l eで検索するだけです。授業中にG o o g l eで検索することの意味があまりないと思います。検索能力を高めるという情報教育なのであればいいのですが、自分で調べましようといったときにG o o g l eに頼ったら、自分で調べていません。自分で調べる能力というのは、この情報はどこにアクセスしたらこの情報を持っているのかとか、情報がどういうところにあるのかということをお自分で探し出して理解することだと思ひます。それが世の中の仕組みを理解することであり、自分で調べることに意味があるはずでず。G o o g l e検索で上から順番に出てきたものを見ていくだけでは、むしろその能力は下がると思ひます。そういう意味で、考える能力を奪ってしまうというリスクがあると思ひていますので、注意していく必要があると思ひます。

岸本委員…中学校で活用時間が少ないというのは当然だと思ひます。I C T教育の本質は、先端技術やビックデータをいかに有効に活用するのかわという利活用が導入の主たる目的だと思ひます。これイコール、低下してきた学力の向上につながっていかないと思ひます。国もI C Tを基盤とした先進技術の活用をしてください、ただし教科の本質、基礎基本は教員がしっかり指導してくださいとなつてお思ひます。I C Tの活用だけに頼つておは学力は伸びないと思ひます。教科の本質は伸びておかないと思ひます。中学校だと各教科担任がいて教科の専門が基礎基本を教えないといけおないので、タブレットを使つて時間を費やしておはいけないと思ひるので、利用時間が少ないのは当たり前だと思ひます。小学校はしぼりがおないので活用できると思ひます。I C Tを導入したおということと、各教科の基礎基本、本質を指導するおというのはイコールではないと思ひます。

学校教育課長…I C Tの活用はあくまでも手段でずるので、学習指導要領の目指すところを指導しておかないといけおなくと思ひます。これを使うおことが目的となつておしまうと、何の力もつておいないおことになつておしまいますので、子どもが本来つけるべき力がつくおように有効に活用しておきましょうと伝えていく必要があると思ひます。

市 長…他ごおありませんか。最後に教育長お願ひいたします。

教育 長…貴重なご意見おりがとうごおございました。制度が現状に追いつておいないおところではず。少なくとも敦賀市の場合おは松陵中学校や角鹿中学校など、かつておは北信越で優勝したおような学校の野球部が一人や二人しかおいないお状況になつておしまひまして、そのためにどうしたらよいかと地域の指導者の皆様に投げかけたおところ、手をあげてくださつた方が多くおらつたおりました。予算もつけてお

ただいたので、やっとテーブルにのったところです。ICTについても、Google検索だけが全てではなく、回答は十人十色であって、その中で何が正しいのか、難しいのかを議論するためのひとつのツールであると考えております。そもそもそのところを踏み間違えないようにしっかり校長先生方と勉強していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

市長…ではこれもちまして令和4年度第1回総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。